2023 12.18 vol.1058

JAグループ

JA全農ウィークリー

JA ZEN-NOH WEEKLY

2面
第41回全農酪農経営体験発表会を開催
（酪農部）

4-5面
TACパワーアップ大会2023を開催
（耕種総合対策部）

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから

https://www.zennoh-weekly.jp/

全農® 食と農を未来へつなぐ。
全農グループ

News!

脱プラ実現に向けて包装資材をリニューアル

アサヒブロイラーと連携、直営店のクリスマス商品に使用

耕種資材部・畜産総合対策部

全農は12月23～25日、グループ会社の㈱アサヒブロイラー（デパ地下・駅ナカで焼き鳥や総菜を販売する直営店を展開）と連携し、同社直営店のクリスマス限定商品に使用する包装資材のプラスチック削減に取り組みます。

今回、従来の包装をクラフト紙主体に変更することで、プラスチック使用量を従来の1枚当たり約5・8㌘から約2・4㌘まで削減。当該包装資材は耕種資材部がアサヒブロイラーに供給します。デザインはクリスマスリースと資源循環の輪をイメージ。裏面には環境省の「プラスチック・スマート」（世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けた取り組みを推進する活動）に賛同するロゴマークを使用しています。

当該包装資材を使用する商品は「ローストチキンもも焼き（鹿児島いいとこ鶏・国産鶏）」で、店頭ではPOPを掲示してお客さまにプラスチック削減への協力を呼びかけます。今後もサプライチェーン上のさまざまな場面で環境に配慮した資材を積極的に使用していきます。

リニューアルした包装資材

プラスチック・スマートロゴマーク

販売店舗

News!

第41回全農酪農経営体験発表会を開催

酪農家と組織が優良取り組み事例を発表

酪農部

全農は11月30日、第41回全農酪農経営体験発表会を開催しました。

本大会は酪農家の経営安定および酪農業界の発展に寄与することを目的としており、これまでは酪農家の優良経営事例に焦点を当てて開催してきました。今年度は厳しい酪農環境を業界一丸で乗り越えていきたいという思いを込めて「未来を創る　酪農のなかま」を副題とし、酪農家だけでなく、酪農業界を支える関係組織の方々からも優良な取り組み事例の紹介がありました。

今年は北海道のJAひがし宗谷、岩手県の全農岩手県本部と葛巻町（くずまきちょう）酪農ヘルパー利用組合、神奈川県の神奈川県畜産技術センターとリトルリバーファーム（小川牧場）、島根県のダムの見える牧場（大石牧場）、宮崎県の（一社）宮崎県酪農公社と上原牧場から取り組みの発表がありました。

また、特別企画として全農の酪農理解醸成イベントにも協力いただいている北出愛さん（北海道山岸牧場）、富澤裕敏さん（群馬県富澤牧場）も登壇しました。

当日の様子は発表者ごとに全農酪農部のYouTubeチャンネルでご覧いただけます。

各発表作品はこちらから

前列右から発表者の小川翔吾さん（神奈川）、上原和博さん（宮崎）、木戸場真紀子さん（岩手）、大石亘太さん（島根）
後列右から仲澤慶紀さん（神奈川）、今井弘高さん（宮崎）、奥平真生さん（岩手）、石黒敦さん（北海道）、富澤裕敏さん（群馬）

News!

「とうほく未来Genkiフォーラム」に参加

生産基盤の維持・拡大の取り組みなどを紹介

全農東北プロジェクト

全農東北プロジェクトは11月26日、東北七新聞社協議会主催の「とうほく未来Genkiフォーラム」に参加しました。

今回のフォーラムは「まじわる東北」をテーマに開催。東北の「にぎわい」「味わい」「掘りおこし」をキーワードに、活力ある東北の未来に向けつながりを深めていくことを目的としたパネルディスカッションなどが行われました。

パネリストとして登壇した全農東北プロジェクト事務局の柴田温専任課長は東北の農業と食の現状を踏まえ、生産基盤の維持・拡大のために全農が取り組んでいる新しい生産技術や労働力支援の紹介と、全農東北プロジェクトの活動、ニッポンエールとの連携などをPRしました。

パネルディスカッションに登壇した柴田専任課長（右から2人目）

News!

「サキホコレ」デビュー1周年

首都圏量販店で副知事らとトップセールス

秋田県本部

秋田県本部は11月24日、県産米「サキホコレ」のトップセールスを首都圏の量販店2店舗で行いました。「サキホコレ」は、秋田県産米の最上位品種としてデビューから1周年を迎えました。

トップセールスは、銀座三越（東京都）とヤオコー南流山店（千葉県）の2店舗で開催。県本部の小松忠彦運営委員会会長と小林和久県本部長のほか秋田県の猿田和三副知事が参加しました。

店舗では、先着100人に新米の「サキホコレ」300㌘を配布したほか、ミスあきたこまちによる店頭販売キャンペーンも行い、デビュー1周年を迎えた「サキホコレ」の新米を首都圏の消費者に対してPRしました。

トップセールスに参加した（左から）なまはげ、小林県本部長、小松運営委員会会長、猿田副知事、ミスあきたこまち

News!

お弁当レシピコンテストの入賞作品決定

「お気に入りのご当地を紹介」をテーマに募集

広報・調査部

全農が協賛する、小学生を対象にした「お弁当レシピコンテスト」の入賞作品が決定しました。最優秀賞は秋田県の食材を使用した「世界で花咲け！サキホコレ弁当」が受賞しました。

住んでいる地域、日本の好きな場所、ふるさとなどのお気に入りのご当地食材・料理を取り入れたお弁当レシピを募集。工夫、作りやすさ、見た目、味を審査して入賞20作品を決定しました。

「住んでいる地域のおいしい食材を紹介したい」「地元の食材で家族が元気になるようなお弁当を作った」「おばあちゃんが住んでいる地域の料理がおいしいから紹介したい」など思いがこもった力作ばかりでした。

入賞者には、お米、JAタウンギフトカード、図書カードなどを贈呈しました。

最優秀賞作品「世界で花咲け！サキホコレ弁当」草雑ことねさん（秋田県・小4）の作品

入賞作品のレシピはこちらから

2023を開催

向けた取り組みを全国で共有

1

全農は11月16、17日、新横浜プリンスホテルで「TACパワーアップ大会2023」を開催しました。全国から地域農業の担い手に出向くJA担当者（TAC）やTAC管理者、JA役員、担い手、関係機関など約260人が参加した他、各県に設置した県域サテライト会場からも多くの方が視聴しました。

【耕種総合対策部】

大会は、「地域農業の課題の解決に資する出向く活動基盤の強化」「食料安全保障に資する『強い農業』の創出に向けた生産基盤の維持・強化」「次世代に地域農業をつなぐための環境調和型農業の実践」をテーマに活動表彰や取り組み事例発表、分科会などを行いました。

また、今年度は新たな試みとして全国を東日本地区（北海道、東北、関東甲信越）、西日本地区（北陸、東海、近畿）、中四国九州地区（中国、四国、九州、沖縄）の三つに分け、それぞれの地区で審査委員会を実施。各地区の代表に選出されたJA・TACによるプレゼン審査を大会内で行いました。

プレゼン審査を経て、最高位にあたる全農会長賞に選出されたJAにしみの（JA部門）、JA石川かほく・櫻井和幸さん（TAC部門）をはじめとして、JA部門2JA、TAC部門9人を表彰したほか、過去の大会で全国表彰を3回以上受賞し、TACの活動を高いレベルで継続しているJA金沢市、JA阿蘇をTACトップランナーズJAとして表彰しました。

取り組み事例発表では、受賞者から生産振興やスマート農業、省力・低コスト資材の導入提案、農家の経営支援など幅広い担い手ニーズに対応した取り組みが紹介されました。また、それら多様な担い手ニーズに対応するためのTAC体制の強化についても紹介しました。

基調講演ではFMラジオ番組「あぐりずむ」のMCでおなじみのタレント川瀬良子さんが登壇。「担い手農家の声を聴く力・伝える力～あぐりずむを通じた農業への想い～」をテーマに、ラジオ番組を中心とした担い手農家への取材の中で培ったコミュニケーション手法について、エピソードや写真を交えながら講演いただきました。

TACパワーアップ大会

TACの「原点」を胸に　「強い農業」の実現に

1 受賞者らの集合写真
2 基調講演をする川瀬良子さん
3 TAC部門で全農会長賞を受賞したJA石川かほく櫻井和幸さん
4 表彰状を受け取るJA部門全農会長賞JAにしみの加賀清孝常務理事
5 大会宣言を行うJAさがみ森海人さん
6 結果発表を行う全農の野口栄代表理事理事長
7 分科会で議論する参加者

分科会では「農業労働力支援」「スマート農業」「事業間連携」「マーケティング力強化」「農業経営支援」の五つのテーマについて熱心な議論が展開され、普段接しない他県・他JAのTACとの交流の場となりました。

全農ではこの厳しい農業情勢の中でも、今後もTAC活動の原点である「担い手との信頼関係を築き上げていく」を胸に、「強い農業の実現」に向けてTACが担い手に寄り添い、ともに課題を乗り越えていけるよう、取り組みを支援していきます。

大会宣言

我々TACは、
一、担い手と消費者の懸け橋として「食」の未来を支えます。
一、JAグループの総合力を高め、担い手の声に応え、営農を後押しします。
一、担い手と共に活気ある地域農業を未来につなぎます。

TACパワーアップ大会2023活動表彰 審査結果

JA部門	【全農会長賞】			
	岐阜県	西美濃農業協同組合		
	【優秀賞】			
	茨城県	水郷つくば農業協同組合		
TAC部門	【全農会長賞】			
	石川県	石川かほく農業協同組合	櫻井	和幸 氏
	【優秀賞】			
	島根県	島根県農業協同組合	原	紀行 氏
	岩手県	岩手中央農業協同組合	米田	菜摘 氏
	【地区別優秀賞】			
	埼玉県	ほくさい農業協同組合	須賀	大輔 氏
	神奈川県	さがみ農業協同組合	森	海人 氏
	石川県	能美農業協同組合	西田	誠也 氏
	三重県	鈴鹿農業協同組合	谷口	昌志 氏
	佐賀県	佐賀県農業協同組合	鶴田	新侍 氏
	熊本県	本渡五和農業協同組合	山下	清弥 氏
TACトップランナーズJA	石川県	金沢市農業協同組合		
	熊本県	阿蘇農業協同組合		

※JA部門表彰を過去に3回以上受賞したJA。活動の高位レベル維持とモチベーション向上、全国のTACの模範となる優良な事例を広く紹介するために2016年度から設置。

「国消国産月間」に多彩な取り組み

地元の農産物を味わい農業の大切さを伝える

徳島県本部は、消費者への食料安定確保の関心を高めるため制定された10月16日の「国消国産の日」に合わせて、10、11月の「国消国産月間」にさまざまな取り組みを行っています。

フードバンクへ県産農産物

10月16日、坂本雅彦県本部長が「国消国産の日の取り組みとして、おいしい地元の農産物を味わっていただき、農業の大切さを伝えていきたい」とNPO法人フードバンクとくしまの清田麻利子理事長へ県産「あきさかり」の新米150キロ、「なると金時」250キロ、飲料「ザすだち」1500本を贈呈しました。

清田理事長からは「寄贈していただいた新米や季節の農産物は、子どもたちに食の大切さを伝えながら大事に使っていきたい」とお礼の言葉と県本部の支援活動に対する感謝状をいただきました。

寄贈した農産物は、フードバンクとくしまに登録している里親会やこども食堂で活用される予定です。

フードバンクとくしまへ県産農産物を寄贈

JA秋のこども食育フェスタ

11月18日、子どもたちが成長していく過程で食への関心や興味を高揚し、食の大切さ、食を支える農業の役割などへの理解促進を図ることを目的に徳島市のJA会館で「JA秋のこども食育フェスタ」（主催＝JAグループ徳島）を開催しました。

当日は親子約250人が来場し、お米に関する講演や「やさい○×クイズ」でにぎわいました。県本部のブースでは、「1日分の野菜摂取目標350グラムぴったり当てクイズ」と県産米を使用した「デコ巻きずし」体験を行い、職員は子どもたちに県産農産物のおいしさやバランスの良い食事の大切さ、みんなで調理し食べることの楽しさを伝えました。

国民が必要とし、消費する食料はできるだけその国で生産する「国消国産」の考え方を多くの方々に知ってもらうために、今後もこうした支援への協力を行っていきます。

デコ巻きずしを作る参加者ら

完成したデコ巻きずし

「1日分の野菜摂取目標350グラムぴったり当てクイズ」の参加者ら

クイズで使用した野菜

JAズームイン

「加賀丸いも」をブランド化 省力化進め商品開発も多彩に

JA根上（石川県）

概要	2022年12月31日 現在
正組合員数	839人
准組合員数	1635人
職員数	34人
販売品取扱高	2億2千万円
購買品取扱高	11億4千万円
貯金残高	411億9千万円
長期共済保有高	643億2千万円
主な農産物	米・大麦・加賀丸いも

JA根上は石川県南部に位置する能美市根上地区を管内とし、手取川扇状地帯の膨軟な土質と霊峰「白山」からの豊かな用水を利用した能美市特産ブランドヤマノイモ「加賀丸いも」や「コシヒカリ」「ゆめみづほ」「ひゃくまん穀」などの米や大麦の生産が盛んに行われており、特産品を使用した加工品も販売されています。

生産者による省力化技術の圃場巡回

省力化技術の導入で「加賀丸いも」生産性向上

「加賀丸いも」の栽培適地は、1934年の手取川の大洪水によって、川砂と粘土質の土が適度に混ざり合った能美市、小松市の一部の水田に限定されています。粘り気の強さが特長で、日本料理をはじめ、高級和菓子などの高級食材として一定の評価を得ていましたが、認知度は十分とは言えない状況でした。

「加賀丸いも」商品

2013年には「加賀丸いも生産100周年」を記念するイベントを開催し、生産振興とブランド化に本格的に取り組み始めました。16年9月には国の地理的表示（GI）保護制度を取得し、18年から最上級品質のプレミアム商品の初競りを開催しました。22年8月には県の特色ある農林水産物として「百万石の極み」にも認定され、徐々に知名度も向上。全国各地から注文をいただいています。

また、省力化の取り組みとして畝立て・施肥・マルチの作業を同時に行う「高畝成形機」や「エンドウネットを活用した簡易つる巻き技術」などの省力化技術の導入による生産性向上にも取り組んでいます。

つる巻き作業

21周年を迎えた根上屋「ごはんば～が」

02年にJA特産品「ごはんば～が」の商品開発を手掛けてから今年で21年を迎えました。開発のきっかけは、JA根上加工部会メンバーのお孫さんの「白いごはん、好きじゃない」というひと言から。加工部会の皆さんが「若者にもなじみ深いハンバーガー風なら、おかずと一緒にごはんを食べてもらえるのでは」という発想から、商品開発が開始しました。

地元食材を使用した13種類の手作り「ごはんば～が」を販売しています。また、「加賀丸いも」を使用した「ボールコロッケ」「とろ～り焼き」なども販売しています（商品はすべて冷凍食品です）。

「ごはんば～が」のパンフレット

全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN
JA全農提供FMラジオ番組（TOKYO FM/JFN38局）
毎週土曜日13:00～13:55
東京・半蔵門のアースギャラリースタジオより生放送!

伊藤園×ニッポンエールの共同開発商品

「ニッポンエール いちご&ミルク」を新発売

全農は、㈱伊藤園と清涼飲料水「ニッポンエール いちご&ミルク」を共同開発し、全国の量販店やコンビニエンスストアなどで販売しています。【営業開発部・酪農部】

商品は、甘みと酸味のバランスが良い福岡県産「あまおう」と国産牛乳を使用し、イチゴの甘い風味と厚みのあるミルク感を楽しむことができます。商品を通じて、イチゴと牛乳のおいしさや魅力を全国にお届けすることで、生果や牛乳の販売拡大にもつなげ、生産者と酪農家の皆さまを応援します。

国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後もニッポンエールの取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。

ニッポンエール いちご&ミルク 450g…199円（税込み）

「お米甲子園2023」に特別協賛

日本の食と農の未来を担う次世代を応援

全農は12月2日、米・食味鑑定士協会と「米・食味分析鑑定コンクール」inつなん実行委員会が主催する「全国農業高校 お米甲子園2023（以下、お米甲子園）」に特別協賛しました。【米穀部】

最高金賞の岡山県立高松農業高校に全農賞を贈呈

農業の後継者不足・若者の米離れが進む中、未来を担う高校生にお米や米づくりに誇りをもち、その発展を目指してほしいという思いに賛同し、全農は2019年から「お米甲子園」に特別協賛しています。

最先端の検査機器と食味の専門家による審査が行われ、最終審査に進んだ15校の中から岡山県立高松農業高校が最高金賞を受賞。全農の高尾雅之常務理事より副賞として全農賞（「にいがた和牛」のすき焼き肉、全農オリジナル茶わん、カトラリー）を贈呈しました。今後も日本の食と農の未来を担う次世代を応援していきます。

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

おらほの逸品館

秋田県鹿角市の八幡平松館（まつだて）集落で古くから栽培されている「松館しぼり大根」は、清らかな水と肥えた土で育てられた地ダイコンです。その「しぼり汁」は独特の風味と目が覚めるほどの強い辛みがあり、おろし専用のダイコンとして地域を代表する特産物となっています。

普通のダイコンよりも水分が少なく、皮ごとおろしてその辛味を楽しむことができます。そば、湯豆腐、サラダ、ステーキなどで食べるのがお薦めです。

松館しぼり大根2kg……2500円（税込み）

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会　2023年（令和5年）12月18日発行（毎週月曜日発行）
第3454号　編集・発行人／広報・調査部　新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

休刊のお知らせ
12月25日号は休刊いたします。
次号は1月1日号です。

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。